

医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム (iKODE プログラム) の開発・実施

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：滋賀医科大学（総括責任者：遠山 育夫）

採択プログラムの概要

海外の大学にもほとんど存在しない医工連携に特化し、デザイン思考を取り入れたグローバルアントレプレナー育成プログラムの開発と実施に取り組む。滋賀医科大学は平成26年度から大学院に「学際的医療人コース」を設置しているが、起業家育成プログラムを有しておらず、その導入自体が挑戦的な取組である。更に進めて、従来にない「医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム」の開発と実施にチャレンジする。

初年度は海外を含めた外部の優れたプログラムの導入を行いつつ、デザイン思考を取り入れた医工連携に特化した人材育成プログラムを開発する。具体的には、起業実績の豊富なオタワ大学、医工連携や米国薬事規制に精通したハーバード大学ブリガムウイメンズ病院、近隣大学の協力を得て、既存の起業家育成プログラムの一部を導入しつつ、新しい人材育成プログラムを確立する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
A	a	a	a	s

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

起業家育成プログラムを有しない医科大学において、「医・工・デザイン連携」(iKODE) という明快な理念を提唱し、「グローバルな医療機器開発に自らリーダーとして参画できる人材」の育成を目指している。取組自体がイノベーションプロジェクトとも言える取組であり、少ない補助金にもかかわらず、全学的取組として適切なマネジメントの下、地域の企業や他大学との連携も実現し、アントレプレナー育成プログラムとして充実させたことは一点突破型の成功事例として評価できる。

・**目標達成度**：所期の計画に沿って適切に実施されている。また採択時の留意事項に記載の立命館大学との連携についても3年間を通して積極的に実施されている。受講者数は年度ごとに増加しており、目標を上回る延べ100人を達成したことは評価できる。また、受講者として参画した研究者の成果が連携企業の新事業として検討されるなど、総じて所期の目標を達成している。

・**成果**：医工連携に特化し、海外機関や他大学との連携により国内外の優れたプログラムの導入、講師の招へいを行い、デザイン思考やシステム思考を取り入れた実践的なワークショップを実施している。地域の企業や産業振興支援機関との連携や、近隣大学からの受講者獲得に成功しており、エコシステムの構築が行われている。多くが臨床医を目指す医科大学において学生のキャリアの選択肢を拡大したことは評価できる。受講者のアイデア4件が連携企業の新事業として検討中であることは成果として評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：機関として初のアントレプレナー教育の取組ということもあり、当初から Step-by-Step でプログラムを充実する方針を採り、実際に受講者の反応を受け、毎年カリキュラムを見直し改善していることは評価できる。PDCA を回すにあたり運営に不足する教員については、全期間を通じて他の EDGE 採択機関や滋賀県産業支援プラザ等と連携し推進している。補助金額が少ない中で自己資金等も加えて、効率的な活動となっており、費用対効果が高い。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：大学経営層のリーダーシップの下、一部の教育プログラムを大学院の学際的医療人コースの選択必修科目として単位認定したことや、本取組を大学の第3期中期目標・中期計画に明記しているなど、補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性を担保する仕組みづくりを補助事業期間中に実施したことは高く評価できる。今後はさらに地元企業からの資金的支援の獲得と地域を巻き込んだ発展を期待する。